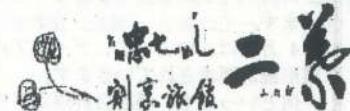


## < information >

ハチミツ ローヤルゼリー プロポリスの専門店



〒361-0073 埼玉県行田市行田5-6  
行田店 ☎048(550)4783 武州養蜂園



〒355-0328  
埼玉県比企郡小川町大塚32  
Tel. 0493-72-0038 (代)  
Fax. 0493-74-1338

### 広告募集

ひこうせんでは、企業広告の掲載をしております。ご希望の企業・団体の方は、ひこうせんまでご一報下さい。

お問い合わせ  
CILひこうせん  
Tel: 048-555-1100

### 編集・発行

NPO法人 CILひこうせん

〒361-007 埼玉県行田市栄町22-5

TEL.048(555)1100  
FAX.048(555)1301

### 編集後記

明けまして おめでとう ございます。

ひこうせん通信に載せたい記事などがありましたら、是非御一報下さい。今年もよろしくお願ひいたします。

大塚 則幸

## ひこうせん通信 VOL.27

住所: 〒361-0071 埼玉県行田市栄町22-5

TEL: (048) 555-1100

FAX: (048) 555-1301

H-P: <http://www.tvg.ne.jp/npo-hikousen/hikousen.html>

E-mail: cil-hikousen@tvg.ne.jp

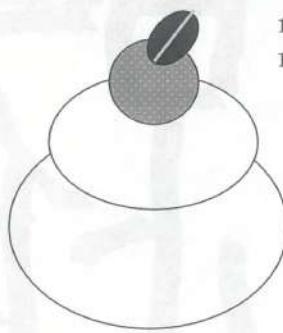
今年の一宇



ひこうせんも5周年を迎え、障害者の自立に向け、これからますます飛躍していきたいと思います。  
その意気を表して、今年の一宇を”躍”としました。  
みなさま今年もよろしくお願いします！！

## もくじ

表紙(字:木村 浩章)	1
もくじ・新年あいさつ	2
特集 バリアフリーウォッチング	
行田の歴史	3
各コース紹介	4・5
対談「バリアフリーのまち 行田を考える」	6・7
こころもよう	8・9
大庭紀行	10
温故知新	11
あっとキミコ	12
この言葉なあに?	13
研修報告	14
各部署からの報告	15
information	16



## 更なる飛躍の2009年

理事長 木村浩章

新年明けましておめでとうございます。

多くのみなさんのご支援、ご協力のおかげで今年6年目を迎えます。

ひこうせんでは、どんなに重い障害があっても、地域で暮らしていくよう支援するとともに、誰でもが、夢をかなえられる社会を作ることを目標に、NPO 法人を設立、ひとつひとつ事業を起こし、日常の様々なシーンで障害者の自立を支援できる体制を築いて参りました。現在、ひこうせんでは、生活サポート、居宅介護事業所、生活ホーム、小規模作業所、障害児学童クラブを運営しています。また、この4月からデイケア「こころ」が障害者自立支援法の日中活動系に移行します。

このようにひこうせんは、様々な事業を行っていますが、どの事業もひこうせんが目標にしている「ボーダーレスな街・行田をつくり」の具体的なツールであり、それぞれの事業を現在より充実することがボーダーレスな街・行田をつくる近道だと考えています。

ひこうせんが更なる飛躍するために皆さんのご支援、ご協力を今年も宜しくお願ひいたします。

# 行田歴史を学ぼう！！

## —行田市は、こんな街—

今回のバリアフリーウォッチングは、行田市内の観光地のバリアフリーを調査しましたが、それに先立ち、行田市障害者小規模連絡会では6月から月1回、市の出前講座を利用して行田の歴史についての講座を4回程開催しました。この講座で学んだ概略を書きます。

### 1 「埼玉県名発祥の地」について

およそ1200年前の奈良時代にできた『万葉集』の中に「前玉（さきたま）の小崎の沼（おさきのぬま）」や「佐吉多万（さきたま）の津」の歌があります。この「さきたま」は、現在の行田市埼玉周辺をさす地名であり、今も神社や字名は「さきたま」と読みます。

また、1100年前の平安時代にできた『倭名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』には、より広い郡名として「埼玉・佐伊太末」とあり、埼玉県の東部地域を「さいたま」郡と呼んでいたことがわかります。このように、小さな地名、「さきたま」が変化して、より広い郡名「さいたま」として用いられるようになっていったのです。そして、長い歴史を経て、明治4年（1871）11月14日、現在の北埼玉郡、南埼玉郡と葛飾郡の一部がまとめられて「県」となり、そのときの管区内のもっとも広い郡名が採用され、「埼玉県」が誕生しました。その後も県域はいろいろと変わり、明治9年（1876）に現在の埼玉県域が確定しました。

### 2 「さきたま古墳群」について

埼玉（さきたま）古墳群は県名発祥の地、行田市大字埼玉（さきたま）にあり、5世紀の終わりから7世紀のはじめごろまでにつくられた9基の大型古墳が群集し、国の史跡に指定されています。

古墳の中でも、丸墓山古墳は日本で最大の円墳であり、二子山古墳は武藏國（むさしのくに：現在の埼玉県・東京都・神奈川県の一部）で最も大きな前方後円墳です。また稻荷山古墳からは、昭和43年の発掘調査の際、金錯銘鉄劍（きんさくめいてつけん）をはじめ多くの遺物が出土しました。これらは昭和58年に一括して国宝に指定され、国宝展示室に展示されています。

### 3 「忍城」について

関東七名城に謳われた忍城は文明年間（1469～86年）の初め頃に築城され、上杉、北条氏との戦いにも落城せず、石田三成の水攻めにも耐えた、戦国の世を生き抜いた名城です。

昨年、石田三成の水攻めを題材にした「のぼう城」（和田竜作）が直木賞の候補なり、一躍「忍城」は、全国に知られるようになりました。

### 4 「足袋の街 行田」について

江戸時代中期より、下級武士の内職として足袋の生産が始まり、明治時代を迎えて機械化され一大産地となりました。戦後は洋装化が進んだため衰退しましたが、今でも生産は行われているほか、足袋から転じた繊維産業が地場産業として一定の地位を占めています。

行田が明治時代以降、足袋をストックする足袋蔵が多く建てられ、現在では、その蔵を利用して、ギャラリーや飲食店等に再利用しています。

以上、このように行田は、全国的に見ても古代から近代までの史跡等が現在でも多く存在しており、十分に観光都市になると思います。しかし、各史跡を見るとまだまだバリアフリーではないところや各史跡をつなぐ交通手段の整備が遅れている課題もあります。それらを障害当事者の主点で関係機関に提案していきたいと考えています。

# バリアフリーウォッチング

2008年10月4日に、小規模連絡会主催で行田市内を巡るバリアフリーウォッチングが開催されました。

行田市内を4つのコースに分けて観光と、各コースでのバリアフリーの調査をしました。行田は歴史的な名所が多く、当日は快晴のおかげもあり、楽しく有意義なイベントになりました。

また、今回のバリアフリーウォッチングの感想をまとめて、行田市内の観光マップをつくることになりました。これは行田市役所や社会協議会との協賛により行われるもので、行田を観光する際の、バリアフリーに関する情報がまとめられています。

年度内に完成予定なので、ご期待ください！

## のぼうの城コース



小説「のぼうの城」にまつわる観光スポットを巡るコースです。

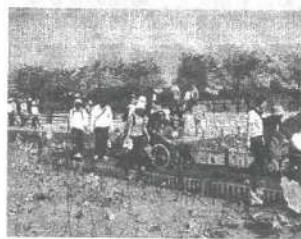


さきたま古墳公園で、集合写真を撮りました。

金子昌代

私は、初めてバリアフリーウォッチングに参加し、商工センターで説明を受け、私は「のぼうの城」のグループとして他の作業所の人達と一緒に号に乗って、最初に行田市郷土博物館に行き、スロープの所を調査しました。下る際に少しだけ段差があり、危ないと思いました。それから行田市の観光名所を回って、最後に商工センターに戻り、調査した事を班の人達とまとめました。調査した事を今泉さんが発表しました。また、バリアフリーウォッチングがあれば是非参加したいと思います。

## 古代ロマンコース



古代ハスの里や、さきたま古墳公園など、古代の歴史的名所を巡るコースです。



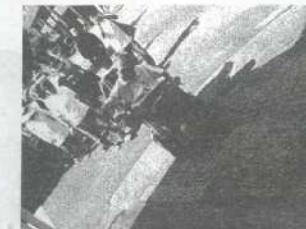
各地点でのトイレ施設のチェックも、このイベントの課題の一つです。

類地亜希子

私は、初めてバリアフリーウォッチングに参加し、私は「古代ロマンコース」のグループとして他団体の人達と一緒に市内循環バスを利用しました。のぞみ園の矢吹さんをリーダーとし、行田市の色んな観光名所を回って、見ることができて良かったかなと思います。実際回ってみると、古代蓮の里では、他団体の人に車椅子を押してもらう体験をして、スピードの調節が難しく、車椅子を乗っている私もちょっと怖かったなと思いました。また来年等も同じような企画がある時には、積極的に企画広報部として参加したいなと思っています。

## 参加者の言葉

## 足袋蔵コース



出発直後の写真です。このコースはすべて徒歩で移動しました。



新町商店街は、歩道の移動がとても大変でした。特に車椅子の方は危険な箇所も多くありました。

## 参加者の言葉

島田 悟朗

車椅子で初めて町を散策しました。天気がとても良く、気持ちが良かったです。普段、何でもない歩道が車椅子では恐ろしいことでした。ちょっとした段差、ちょっとした割れ目などに前輪が落ちたり引っかかったり・・・車椅子を前後から押してもらったり、坂道をバックで上がったり所によっては、歩道を歩くより車道を走った方が楽なぐらいでした。途中、所々のお店に立ち寄り買い物をしたり、見学をしました。素敵なアトリエ風のお店もあったり、蔵は街にとけこみとても素敵な町でした。次回もこのようなイベントがありましたら是非、また参加をしたいと思います。

## 知られざる万葉文学コース



前玉(さきたま)神社。寺社は階段が多いので、その都度車椅子の方を持ち上げて移動しました。



八幡山古墳の石台。中がとても狭いので、車椅子の方を男性陣が一人ずつ連れて行ってくれました。

## 参加者の言葉

細野 恵理子

バリアフリーウォッチングに参加しましたが、電動車椅子に乗っている自分から感じた事は、障害者用トイレの事や一般用トイレも清潔なトイレが、沢山増えたら、良いなと思います。感じた事は、まず、急な坂で中に入る所には、三十cmぐらいの高さのある石段があり抱えてもらいに入つて行けばいくほど石の天が低くなり、介助者は私を抱えながら中に入ったので申し分けなく思いました。中はうすぐらかったけど、空気が、すごく気持ちよかったです。私は、舞台中に、車椅子を抱えて連れて行ってくれた四人の男性の方々には、感謝の気持ちで一杯でした。私達の班は、昼食に「麦の穂」の渡辺さんの身内が、やっているラーメン屋【丸信】で食べました。丸信ラーメンのおすすめは、【お肉少なめで野菜たっぷり餃子】が、とても美味しいかったです。是非、皆さんも食べてみてください。

# 対談 バリアフリーの街 行田を考える

行田市福祉課 江森裕一さん  
C I Lしひこうせん理事長 木村浩章



木村：今日はお忙しい所、ありがとうございました。

まず、江森さんの今の仕事は何ですか？

江森：私は市役所の福祉課で地域福祉計画の担当をしています。地域福祉計画で言う福祉の言葉の意味は、障害者福祉とか高齢者福祉とかそういう支援を必要とする人だけではなくて、生活全般、全ての人を対象とした広い意味の福祉という事で、「住み慣れた地域で支えあって暮らしましょう」ということをテーマにする計画です。

木村：いつまでに策定するのですか？

江森：策定期間は、平成20年度と21年度の2ヵ年間です。計画期間は、22年からの5年間、3年で見直しです。5年経ったら終わりではなくて、又5年後に新しい計画を作り直します。これは、社会福祉法に基づく計画であり、行田市としては初めて策定します。

木村：障害者が自立生活を送るために地域の協力がないといけないので、地域の中で障害者がどう関わるのか、そのために地域を変えるのは障害者自身だと思います。

江森：障害者が地域に対して提案したり、地域を変えていく。その結果として、地域で支え合う仕組みを作ろうと言うのが、木村さんの理念なのですね。まさにこれから作る計画と同じ方向を向いていると思います。

木村：さて、昨年10月4日のバリアフリーウォッティングは市の職員の皆さん方が参加頂きましたが、その中で地域福祉計画策定のユニバーサル部会の皆さん方は参加しましたか？

江森：はい。全員ではないのですが、何人か参加させていただきました。あの時は福祉課の職員が一番多かったのですが、その他に道路治水課や建築課、商工観光課の職員、普段だと福祉にあまり関係ない人達にも参加してもらいました。それ以外の課の職員にも声を掛けたのですが、日程が合わなかったので参加出来なかつた職員もいました。次回はできるだけ大勢参加してもらえるように声掛けをしたいと思います。

木村：バリアフリーを考えもらって、職員の皆さんの意識の変化はしましたか？

江森：やっぱり、ただ聞いたりするのとは違って、実際に車椅子に乗ってみたり、障害者の方と一緒に歩いてみて、どういう事が改善されれば動きやすくなるのかとか。そういうのを実際に見る事が出来ました。皆、頭で分かっているつもりだったのが、実際、目の前で見たり、経験する事によって、かなり意識が変わった様に感じます。

木村：江森さんご自身はどういう事を思ってくれましたか？

江森：まず、小さな事ですが、例えばスロープになっていれば車椅子の人は通れるという、単純に我々は思うのですけれども、スロープの角度であったり、降りた所の平面の部分の長さであったり、歩道が上手く整っていないと實際には使いづらかったりする。それから、1番皆さんが言っていたのは、古墳公園のトイレの話ですね。立派な障害者用のトイレを1つだけ作るよりは、広めのトイレが2つあった方が効率的であるという提言がありましたけど、このような視点は実際に使っている人でない

と思いつかないと言うのは良く分かりました。ですから、今、私が思っているのは、何か事業を始める時に、あらかじめ障害者の方の意見を聞いたりする仕組みを作つて行けたらいいと思っています。

木村：今回のバリアフリーウォッティングを基にマップを作りますが、それは地域福祉計画のどの部分にあたるでしょうか？

江森：今回のマップ作りですが、観光マップですから観光だけを目的にしていると思われがちですが、それだけではありません。今回、地域福祉計画の大きいテーマとして、市民や団体との協働であるとか、市民参加という事が大きいテーマです。今回、一緒にマップ作りをする事によって、今後の協働の進め方であるとか、仕組み作りのモデルケースとして参考にしていきたいのです。出来上がったマップは一般的な観光用としてはもちろん、障害者の方へ行田市をPRするアイテムとして、2段階に活用方法を考えています。

木村：僕は、行田市をPRや街の活性化するのは、観光しかないと思います。

江森：そうですね。観光というのは1つ今後の大きな行田市を元気付けるためのアイテムであると思います。観光で町作りというのは、当然大きな目標だと思います。

木村：僕は、観光と障害者雇用を結びつけるのは何かを考えると、例えば観光地。例えば、博物館の受付は障害者が担当するとか、車椅子の観光客は、車椅子の人が案内する。あと、町の中に物産館があって、その運営を障害者団体が担当してはどうだろうと思っています。

江森：障害者のお店として、物産館を作るみたいな。なるほど。そういうのも1つアイディアとして面白いですよね。

木村：これから、自立支援で障害者の就労をメインにしています。でも、就労の先がないと駄目です。そういう場が就労先になればいいと思います。

江森：なるほど。観光を活用して、障害者の就労先を移行というのが木村さんの考えなのですね。

木村：ひこうせんは、「ボーダレスな町ぎょうだを作る」という理念がありますが、江森さんにとてのボーダレスな町のイメージはありますか？

江森：はい、2種類あると思うですが、1つはハード面です。色々な人が暮らしやすく、利用しやすい町というのが当然であって、それを進めて行くということ。市もそうですし、民間の事業者も含めてそういう方向に向くというのが必要だと思います。

それと、もう1つは心の面だと思うのですが、行田市ではユニバーサルデザイン指針が平成17年にできました。この指針が特徴的なのは、心のユニバーサルデザインとして、ひとつに力を入れましょうということがうたわれている点です。まさに先入観だったり、知らなかつたりする事によって心の垣根が出来てしまうことがあるので、教育であるとか、交流の場をつくることによって人の気持ちを変えて行くと。この2種類、いずれも必要なんだと思いますね。自分が出来ているかどうかというと自信はないのですが、そういう方向に行くのがこれからの方針性かなと思います。答えになつていいでしょうか。

木村：どうもお忙しいところ、ありがとうございました。



# こころもよう

企画広報部 類地亜希子  
金子昌代

## ●ディケアこころの食事会「ラ・セーヌ」に行きました。

11月26日(水)、ディケアのみんなで「ラ・セーヌ」に行きました。事前に注文したパスタやステーキ等を食べながら、楽しいお喋りをしながら食事を楽しみました。また食べに行きたいです。



楽しいお喋りして  
いる様子

## ●今年最後の12月のワークショップは「クリスマスリース作り」

12月4日(木)、今年最後のワークショップは「クリスマスリース作り」。つるに可愛い鈴やリボンや松ぼっくりなどを飾り、素敵なクリスマスリースを作りました。素敵でしょ？



素敵なクリスマスリース  
が出来た！！



富田さんは2個も  
作りました！

## <羽生イオンの黄色レシートをください！>

毎月11日は、イオンの「黄色レシートの日」。ご存知でした？ひこうせんではイオンのレシートで毎月11日の付のものを集めています。金額の1%がひこうせんの活動資金になります。白いレシートでも有効ですのでよろしくお願いします。

## 『ディケアこころの販売&お知らせ』

### 2月の販売

6日(金)・20日(金)	市役所販売	12:00~14:00
13日(金)・27日(金)	やすらぎの里	11:00~13:00
24日(火)	みらい販売	13:00~15:00

場合によっては、中止になる事もありますので、ご了承下さい

## <自立支援法「多機能型障害福祉サービス事業所 こころ」へ向けて>

今泉 忍

現在の埼玉県の事業である「ディケア こころ」は、来年4月から自立支援法下の「多機能型障害福祉サービス事業所 こころ」へと移行し、活動の幅、質双方をよりパワーアップしたいと考えています。

就労移行支援、就労継続B型、生活介護 の3つのサービスを行なうと同時に、近隣にいくつかの活動拠点を設け、自立に向けたより現実的な方策を探ります。

まず、南河原では、アートとクラフト、音楽などの創作活動や自己表現が自由にできる場として、また4月からは敷地内にカフェをオープンし、接客や仕入れ、販売、管理などの仕事を通して、就労継続B型の活動としての様々なプランを考えています。

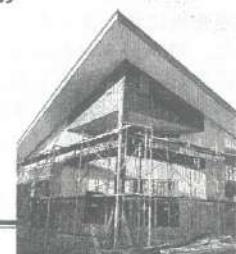
また昨年10月にオープンした熊谷の星川沿いのギャラリー「SPACE K」では、就労移行支援の拠点として、アート商品の企画、営業、販売などの実践的な仕事を通して、一般企業への就労をめざします。

もちろん従来からのひこうせん本部でのパソコン、事務等の仕事においても、より専門的なスキルアップをめざして、活動していきます。

いづれにしても、本人のやりたいことや持っている能力を最大限に引き出して、楽しい日中活動の場とし、その結果として本人の収入に結びつくようスタッフ一同、努力いたします。

また一方で、ディケア開設から3年目、という節目は、マンネリや緩みから起因する事故やトラブルなども考えられますので、作業の標準化、基礎づくりをしっかりと施し、安全についても強化してゆきたいと思いますので、みなさんのご協力をお願いします。

建設中のカフェです！



# 大庭紀行

ひこうせん利用者の大庭 昭さんの旅行記です。

みかん狩り、去年風布にみかん狩りに行ったことを思い出しながら語りたいと思います。1月半ば過ぎ、私達は風布みかん園に向かっておりました。熊谷市内を抜けるとぱっと光が開けて田園風景が広がっております。遠くに荒川が見え隠れしております。道路は荒川と平行するように続いております。左前方に秩父の山並みが遠く近く重なり合うようになっております。山並みの中程に釜を伏せたような山があります。釜伏山です。山頂には神社があります。少年の頃、5~6人でハイキングで登った記憶が頭を掠めます。

約50分程で左側に折れて荒川の橋を渡りますと、もうそこは風布です。道路沿いに民家があり、軒下に晩秋の秩父地方の風物詩と言われる吊し柿がいっぱい下がっております。この風布には約20軒程のみかん園があると聞いております。その昔、戦に負けた豊臣の殘党が落ち延びてきて、ここに住み着き、みかんを作ったのがそもそも始まりだと聞いております。このみかん園の20軒程あるうちの1軒、たちばな園の駐車場に車を停めました。駐車場の端に縁台が設けてあり、そこに80絡みのおばあちゃんと50代と思える女性が店番をしております。ここで入園料500円を払ってみかんのもぎ取り方の説明を受けました。

みかんを持って左か右へくるくると3,4回回しますと、簡単に採れると言うことです。「無理にみかんを持って引っ張ったりして枝を折ったり、またみかんの木を傷めたりしてもいけませんので、ここはなるべくそういうことは避けて下さい。」と色々と説明を受けまして、袋を頂いて2人に見送られてみかん山に向かいました。

山は約5分程紅葉をしておりました。山の斜面を前屈みになって、木の枝に頭が触れないようにして登って行きます。なるべく平坦な所に辿り着いて手を伸ばすと、みかんにすぐ身近に触れる事ができます。みかんを持ってくるくると左に回しましたら、3,4回でボロリとみかんが採れました。みかんを2つに割って味を確かめながら、なるべく美味しいみかんを探しては袋に詰めて行きます。アシスタントの人の協力も頂いて探してもらいながら、山を登って行きます。

みかんを口に含んではまた袋に詰めたり、約40分程でみかんが袋にいっぱいになりました。また元来た道を前屈みになって山道を下りて行きます。みかんをいっぱい入れたせいか、みかんが3つ程落ちてしまい、コロコロと山道を転がって行きます。

アシスタントの人が「あれ、みかんが落ちたわ。」と言って2つ程拾ってくれましたが、1つは下の方まで落ちていって取ることが出来ませんでした。やがて、駐車場に出て縁台の側まで来ると、おばあちゃんが「どうでしたか？みかんはいっぱい採れましたか？」と言うので、「はい、色々採って参りました。みかん、小さいのはきんかん程の実から大きいのは掌にやっと握める程の大きさのみかんもあり、大小様々なみかんがなっておりました。

そこで「これからお茶を入れますので、1杯飲んで行きませんか？」と言うので「では、頂きます。」ご馳走になることになりました。この地方で採れましたこんにゃくを煮込んだ物と、お新香が添えてありました。アシスタントの方が楊枝にお新香をさしてくれて手渡してくれました。また、こんにゃくを煮込んだ物も手渡してくれました。コリコリとした歯ごたえがしてとても美味しく煮込んでありました。ここで約20分程談を笑してからみかん園を後に致しました。

まだ、時間が充分ありますと言うので、ここから15分程先にありますかんぽの宿で昼食を探ることになりました。昼食を済ましてから、ここに温泉があると言うので一風呂浴びる事になりました。一風呂浴びて2,30分程休憩してからかんぽを出て、秩父を後に致しました。行田に着くと、2時半を少々回っておりました。

今日は長時間、アシスタントの人には大変お世話になり、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

これでみかん狩りを終わらせて頂きます。

## コラム

# 温故知新

毎年末にその年の世相を反映した「漢字」が発表されている。

昨年、発表された漢字は『変』であった。その変には、「変わる」という意味がある。また、アメリカ初の黒人大統領オバマ氏が大統領選挙後の演説で、「チェンジ」と言った。この「チェンジ」も日本語で「変わる」という意味がある。

昨年一年、食品偽装、凶悪犯罪、医師不足、世界的な景気低迷による雇用不安が相次いだ年であった。どれ多くの人の生活に直接影響がありながら、政府は何も施策を出さないまま新年を迎えた。

21世紀になってから約10年が過ぎ、ここに来て20世紀に残した課題が一気に放出されたのが昨年であったと私は考える。

私は、今は明治時代の初期の頃に似ていると思う。それは、鎌倉時代から江戸時代までの約700年続いた武家政治から現代社会の原型に変革がなされた。その変革に尽力したのは、坂本竜馬、西郷隆盛らであった。

長い間、徳川政権であった江戸時代と戦後から1つの政党による政権が続いている現代社会は同じではなかろうか？

明るい日差しが不透明な現代社会に平成の坂本竜馬や西郷隆盛が一刻も早く現れることを期待したい。と同時に、障害の有無は問わず自己選択、自己決定、自己責任がより一層、求められる年になるだろう。

記：木村浩章

# あっとキミコ

あなたの夢をかなえるために（前回の続き）

「いいこと日記」のススメ

齋藤 貴美子（副理事長）

新しい年をどのようにお迎えでしょうか？ また、今年をどんな年にしたいと考えでしょうか？

「夢をかなえられる」「なりたい自分になれる」簡単な習慣、1日たった5分でオッケーです。毎日その日に起きた「いいこと」だけを記録していくやり方です。「いいこと」をメインに書き出すと、気分はすっきり明るくなるし、「いいこと」そのものが増えて、苦手なこともドンドン楽しくなっていくというのです。

「いいこと日記」は、いつから始めてもいいし、毎日必ず書かなくてはならないというプレッシャーを感じる必要もありません。

どんなことを書いたらいいか、提案者の中山庸子さんは、

マネーいいこと欄 うまくいった買い物・うまくできた節約・ただ今の貯金額

ヘルシーいいこと欄

ヘルシーでおいしい食材・ヘルシーな食材・

グルメいいこと欄

おいしーいと思ったもの・その日食べたもので一番おいしかったもの・お店の雰囲気や値段、誰といったかなど

ファッショニいいこと欄

自分で気に入っているコーディネート・家族や友達に褒められた着こなし・服だけでなく靴やバッグ、スカーフやアクセサリーも記入しておく

ビューティケアいいこと欄

フェイシャルのいいこと・ボディのいいこと・ネイルのいいこと・お店に関するこ

スポーツ・カルチャーいいこと欄

などを書いてみたらとアドバイスしてくれています。そして、何も書く事がなかったら、明日することを書いてみる、あとで見るのもいやになってしまったときは、切り抜きを貼ってしまう、など自分の好きなように「いいこと」を書いていく事を教えてくれています。

今年、いいことが沢山おきるよう、気楽に「いいこと」日記を手帳の片にでもつけてみたらいかがでしょうか？

# この言葉なあに？

『CIL』ってなあに？

大塚 則幸

CILとは、"Center for Independent Living"と言って日本では自立生活センターとして紹介されています。1970年代にアメリカで始まった障害者の自立生活運動の拠点として、カリフォルニア州バークレーに設立されたことがCILの歴史の出発です。CIL（以後、自立生活センター）の主な事業は「障害があっても地域社会の中で普通に暮らしたい」と思う障害者の自立支援や権利擁護、様々な生活サポートを実現支援することです。日本では1990年代から全国的に増えはじめ、「NPO法人CILひこうせん」は2004年の4月に出来ました。

自立生活センターは主に「自分たちに必要な介護派遣」「地域で自立して暮らすための障害者運動」「自立に必要なノウハウを学べる場を自分たちで提供（ILPプログラム）」「自立に向けての当事者へのカウンセリング（ピアカウンセリング）」などです。

障害者自らが中心となり、「障害のある者こそが障害のある者へ最良の理解者となりうる」

自立生活センターの全ての活動はこの理念に基づいて行われています。

必ず自立生活センターの理事長と事務局長は障害者でなくてはならない、何故ならば障害者は弱い立場だからこそ障害者が障害者のために相談に来ても相談しやすく理解もでき、守ることも出来るからである。

ひこうせんは、CILとして障害者達のサポートを全般的にしています。

# 研修報告

ひこうせんの職員が参加したセミナーや研修の報告をします。

2009年11月9日

## 埼玉県放課後児童指導員研修会 研修報告

学童 高橋けい子、山本真由美、田村久美子

木枯らし吹く11月9日、越谷市にある埼玉大学で熱気にみちた研修会が開催されました。県内88ヶ所の学童保育所から900名弱の指導員が集い、午前中は全体会（議義）、午後はテーマごと17の分科会で専門知識を学ぶという内容です。

〔全体会〕 講師 村山士郎（大東文化大学教授）

まず、この研修会の意味、学童環境の必要性を伝えて下さいました。

次に「指導員の立場から子どもを見る目」を養い、指導員自ら学び、良い学童を目指す。研修の目的が明示されました。

〔分科会〕 講師 村岡真治（ゆうやけ子どもクラブ 職員・東京小平市）

入室して驚いたのは、20代の男女指導員もいて、部屋の雰囲気が若やいでいた事です。この道30年のベテラン村岡先生は、実技指導から入りました。フォークダンス5曲続けて踊るには、きらきら3人娘？も参りました。これは思春期の子ども達向けに実践し、生き残ったナンバーだそうです。村岡先生は子ども達十人十色の障害を生きづらさ人それぞれと、とらえられています。行動やつぶやきの裏を探って常にポジティブに理解に努め、実践し、共感する。「ありのままの自分でいいよ」の雰囲気作り。子どもの心を支える「楽しみ」を創り出す…等を体験を支え教えていただきました。

学童「きらきら」は丸2年を迎えました。見守りからの脱却を目指している私達には、とても有意義な内容でした。大切なのは、きらきらでできる事を考え、実践継続して独自の文化を造り出すことです。これからもスタッフ一同努力して参りますので、温かく見守っていただきたいと思います。

2008年11月1日・2日

## 奈良「たんぽぽの家 アート化セミナー」研修報告

企画広報部 斎藤 和希

昨年11月、奈良の「たんぽぽの家」という施設内で行われた障害者のアートについてのセミナーに参加できました。

たんぽぽの家は、障害者のアートを商品化することの先駆けといえる施設です。ひこうせんもこれからデイケアの方の作品の商品化を考えているので、ぜひ勉強をさせてもらおうということで意気込んで参加できました。

セミナーの一日目は、実際に障害者の方と連携してアートを実施している団体や施設の方の活動を紹介してもらいました。

どの発表も、障害者アートという点では先進的な団体・施設で、そのレベルの高さに驚きました。

すべての施設で共通することは、「待つ」ということでした。

絵を描くこと、制作すること、行動すること、そのすべてを焦らず、急かさず、強要しないということ。とにかく障害者本人と向き合うことが大事だとみなさんおっしゃっていました。

商品化するために絵を描くのではなく、障害者が自分らしく生きていくために絵を描くんだ、ということを忘れてはいけないと改めて感じました。

セミナー二日目は、午前中に「商品開発について」、午後は「展覧会をつくる」という講座を受けてきました。

販売を行っているショップ店員や、展覧会を企画している施設の代表の方からお話を聞いてきました。実際にあった苦労や、注意点、意識していることなどを聞けて、とても勉強になりました。

しかし、どちらの講師の方も口を揃えておっしゃるのは「経験しないとわからない」ということでした。

私は、アートの商品化も展覧会もほとんど経験がありません。何が足りないのかもわからない手探り状態なのですが、これから経験を重ね、学んでいきたいと思います。

そして障害者の自立に向けて、ひこうせんと共に良い方向に進んでいけたらと思いました。

# 各部署からのお知らせ

## 新しい年を迎えて

齋藤貴美子（総務部長）

明けましておめでとうございます。今年は、ひこうせんが事業所として安定した業務体系を構築すべき節目の年となってきます。みなさまのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

4月には、いよいよ、デイケアが新体系に移行します。各部署が、移行に伴い、新たな事業形態が要求されていきます。

何といっても、経理会計規定が社会福祉法人の経理会計規定に準じるようになることが各部署の業務に大きな変化をもたらします。社会福祉法人の経理会計規定に準じるようになるために、社会福祉法人の経理会計規定にあった会計処理をしなければなりません。各部署が会計責任者の統率に基づいて、会計業務を行っていただきますので、処理方法の変更にはご理解をお願いいたします。

次に、これまで有限会社で経営してきたパーソナルアシスタントを本年4月1日より、ひこうせんの経営に統合します。業務内容は如何変更はありませんが、事務所の開設（2月を予定）や書類等の変更に伴う業務が発生しますので、ご協力とご理解をお願いいたします。

さらに新体系に必要な職員の配置にともなう、職員の増加や異動などに適切に対応していくかと思います。

今年もひこうせんはその役割を果たすための新たな挑戦を続けていきます。

ひこうせんの目的達成に必要な組織体制も検討中です。総務部として、気持ち新たに、課題に取り組んで行きたいと思います。

今年もよろしくお願ひいたします。

## PAG からのお知らせ

PAG サービス提供責任者 田中ひろみ

利用者様に満足して頂ける派遣をモットーにアシスタント一同、スキルアップをして派遣に努めたいと思います。今年も宜しくお願いします。

PAGでは、これまで法人本部に事務所をおいて参りましたが、新たに事務所を開設することとなりました。詳しい日程や場所等は別途お知らせ致します。この事務所開設により、さらに、質の高い派遣を目指します。ご期待ください。

エプロンの着用についてですが、利用者とアシスタントの判断に任せています。お互いの話し合いでお着用するかどうかを決めてください。

これからも利用者の様々なニーズにお応えできるよう、関係職種の方との連携を図り、サービスの向上に努めたいと思います。派遣に関して意見等あれば、些細な事でもご連絡ください。宜しくお願いします。

## レスパイト輸からのお知らせ

レスパイト輸 内田由利江

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。今年は、周知のとおり4月から生活サポート制度の改正で利用料が30分250円から475円のいずれかになります。今まで負担金がなかった方も支払うことになりますので無駄のないよう、有効的に御利用下さいますように。